

## Ⅲ. 教育本部報告

### 1. 検定関連

#### 【理論検定会】

参加人数：準指導員：70名 昨年比 20名増

本年度受験者数の減少が心配されたが、70名の受検者を得ることができた。

検定会は、11月の理論よりスタートした。

理論検定会は、90分間行われ、理論問題については、教程の指導方法論、3本の矢を柱に、いかにしてパラレルターンへ導いて行くか、指導の過程での動作要領について、また、スキーの歴史的背景と、技術の変遷について、また研修会テーマから、かなり幅広く出題を行った。

難易度の高い出題であったが、理解を深めた受験者が多く、出来栄は非常に良かったと思います。特に大きな問題も無く、無事終了いたしました。十分な理解のもと、充実した実技養成に結び付いたと感じています。

#### 【実技検定会】

受検者数：70名、合格者数 36名 合格率：51.4%

3月4日 より実施。天候：晴れ

グレンデコンディションにも恵まれ全体的に良い検定会を実施することができました。

初日 10:00～実技検定に入りました。

パラレルターン大回り

不整地小回り

(今年は、雪不足により、キャプテンコースからビーナスコースへ変更して実施)

総合滑降

基礎パラ大回り

ブルークボーゲン

上記、5種目をオンスケスケジュールで実施し、その後、集計作業、課題の提出レポート、読み込みおよびチェック作業を行いました。

3月5日 天候：晴れ、グレンデコンディションも昨日同様良好。

シュテムターン

横滑りの展開

基礎パラ小回り

制限滑降

検定会は、怪我人無くスムーズに行えました。

(教程改訂から3シーズンを迎え、指導方法論あるいは、実技の演技方法も浸透してきている。養成講習会よりスタートし、本年度は特に、指導の過程である運動要素をしっかりと理解し、対象者に分かりやすい師範ができる、と言うことを評価の大きなポイントとして取り組みました)

## 【BC 検定】

BC 級検定員検定と併設することから、ジャッジを行う為、タイムスケジュールを合わせながら実施しました。第二日目も無事終了し、集計作業を実施しました、無事に検定会種目を消化し、怪我人も無かったことから、大変良い検定会となりました。

B 級： 受検者数 21 名、合格者数 21 名 合格率：100%

C 級： 受検者数 22 名、合格者数 19 名 合格率： 86%

## 2. 強化関連

### 2. 1 強化合宿

- (1) 強化合宿 A は、年初の雪不足により開催が危ぶまれたが、車山高原スキー場の協力により、戸隠スキー場から会場を変更し開催できた。
- (2) 強化合宿 B は、例年通り特別講師として、宮下征樹元ナショデモを招聘して、選手個人の課題をグレンデや夜のミーティングで確認し、充実した合宿となった。最終日に全日本出場選手を発表した。
- (3) 直前合宿を戸隠で開催した、県連合宿の目的も浸透しつつあり、以前より参加選手は増加している。チームとしてのまとまりも醸成されている。

### 2. 2 県技術選手権大会およびマスターズ大会

直前までの積雪不足で開催が危ぶまれたが、直前の降雪とスキー場の整備により開催できた。選手は、個々の力を十分に発揮することができたバーン設定となった。この数年、参加選手数は微増している。

### 2. 3 全日本スキー技術選手権大会およびデモンストレーター選考会

今年も八方尾根スキー場にて開催され、男子 10 名、女子 6 名（リザーブ含む）本選通過男子 4 名、女子 2 名、決勝は男子荒井選手のみ。

最終成績は、58 位でした。

来年は、北海道のルスツリゾートに開催場所の変更があります。

### 2. 4 台湾関連

今年で 2 年目の事業ですが、スノボは増加したものの、スキーは認定、準指導員ともに減少しました。

## 3. スノーボード関連

近年は登録者・参加者数とも伸び悩みが続いていましたが、本年度より外国人ユーザーの受け入れや、SAK 内登録クラブでスノーボード 1 級所持者の多くが、公認スノーボード準指導員養成講習会参加および検定会受検し、過去最大の合格者が出ることになりました。

また、技術強化においては長年継続して行ってきた選手育成に結果が出ることになり、本年度南関東ブロックおよび SAK 初の SAJ スノーボードデモンストレーターが誕生しました。

次年度においても引き続き国内外の参加者を積極的に受け入れ、参加者の質の向上となる行事を開催して行きたいと考えます。

#### 4. 研修会関連

- ・車山Ⅰ行事にて都連とコラボ実施、研修会講師を3名派遣
- ・指導委員会から各行事において、研修会・クリニックともに最低限行う事を周知し、雪上での統一化を図った。
- ・SAJ専門員が講師となり、技術員研修を実施、教える側のレベルアップを図った。
- ・受講者の希望によるアシスタント制を継続し、魅力ある研修会に努めた
- ・SAK版スキー大学として、湯沢行事でハイパー講習を継続、4名のデモを講師として招き、名物行事として定着化、募集開始後即定員に達した。
- ・SAJ報告を企画委員会から引き継ぎ定着化が図れた。

#### 5. ニューススタイル

北海道行事では好評に実施できたが、五竜Ⅱでは申し込みが僅少で行事を中止せざるをえなかった、但しスキーヤーの思考が多様化していることから、より工夫し継続したいと思う。

#### 6. 安対関連

- ・パトロール研修会の通知を有資格者にDMにて周知した
- ・新規に日赤救急員の資格継続研修を実施
- ・3年ぶりにパトロール競技会に参加
- ・パトロール受験者2名、合格者2名